

150 回 稲門フィラテリー切手教室 レジュメ

2019 年 4 月 6 日

モーツアルトの死をめぐる

加藤 健一



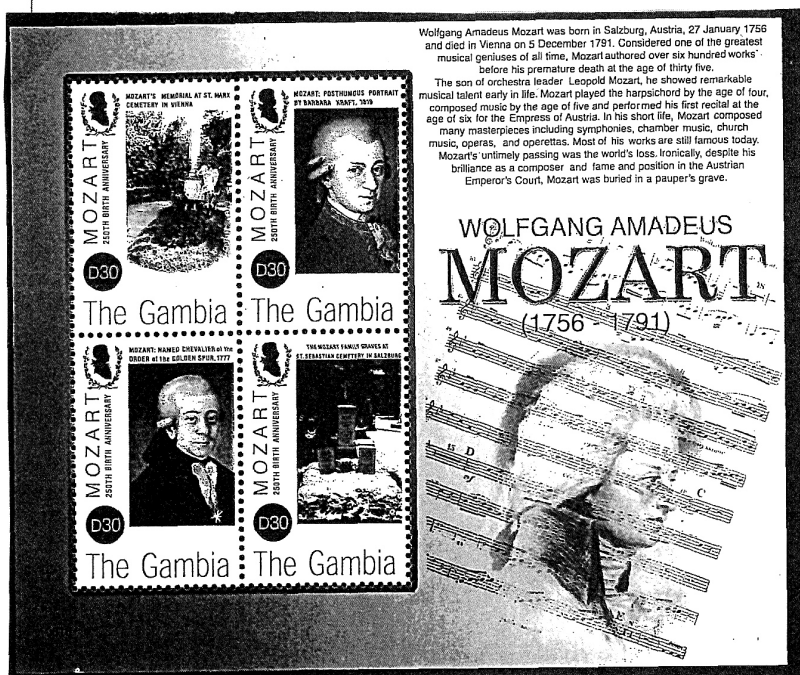
オーストリア 1991 年発行 モーツアルト死去 200 年

モーツァルトの死をめぐって

加藤 健一

モーツァルトの死因

- I 病死説
- II 毒殺説 a
- III 毒殺説 b



ウィーン マルクス墓地にある
モーツァルトのお墓



左上) ガンビア 2006 年発行

右上) 現在のモーツァルトの
お墓

下) オーストリア観光葉書
1948 年頃

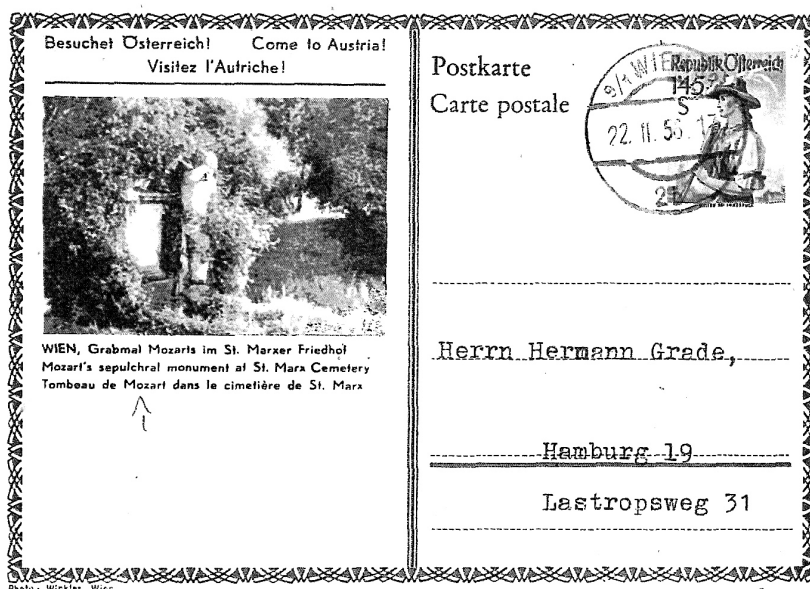


Photo: Winkler, Wien

20

I 病死説

急性粟粒診熱（一応公式病名、教会への届出/主任司祭による管理台帳）

バセドー氏病、腎臓病（少年時代/慢性化？）、水銀中毒、リウマチ性炎熱症、結核、瀉血、梅毒、遺体は全身むくみがあったという不確定的記録も。

1791年8月23・24日ころ、プラハ行直前に見知らぬおとこが訪ねて来て「レクイエム」作曲を依頼

8/25 ,プラハに出発 神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世のボヘミア王戴冠式へ

9/20, プラハから帰宅

9/28, 歌劇「魔笛」完成

9/30 歌劇「魔笛」初演 於ウィーン・ヴィーデン劇場（免税館フライハウス内）

10/7・8・13 上演を観劇（13日はサリエリ同席）

10/16 湯治の妻コンスタンツェをバーデンに迎えに行く

10/17 妻と帰宅

10/末 病床に就く

11/18 フリーメイソンのためのカンタータ「我らの喜びを高らかに告げよ」K 623 を指揮。完成された最後の作品（3日前の11/15に完成）

11/20 病床から出られず

12/5 未明（朝1時）死亡 同日届出、 当日妻コンスタンツェはバーデンに湯治中

12/6 葬儀 第3等級葬儀料 8Fl.56Kr.支払い

12/7 埋葬

ウィーン市 葬儀条例 1等級～3等級 ベートーヴェン＝2等級

「モーツァルトの遺骸は、ウィーン郊外にあるマルクス街道の墓地に埋葬された。遺族の支出を最小限に抑えようと・・・棺は共同墓地に埋められ、その他一切の出費を避けることとなった。」

ゲオルク・ニクラウス・ニッセンのメモ。殆ど唯一の当時（初期）の記録
デンマークの外交官 モーツァルト死亡の翌年コンスタンツェと同居、後に結婚



しかし3等級の下に貧者葬（無料）というものがあつた。

5～6 柱を共同墓穴へ

「貧者の葬送」ピエール・ロシェ・
ヴィネロン画



ベートーヴェンが銅版画を所持 感想を述べる

シュテファン寺院の死者名簿

1791年12月6日、第3等、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト氏。

オーストリア皇王室楽長にして宮廷室内作曲家。

ラウエンシュタイン通り小カイザー館、970 番地

死因所見は急性粟粒診熱。36 歳

聖マルクス墓地。料金 8 フローリン 56 クロイツァー支払い済み。

馬車 3 フローリン



聖シュテファン寺院

オットー・ヤーンの手記

スヴィーテン男爵は葬儀の面倒とみることにし、未亡人の乏しい懐具合も考慮して、できるだけ簡単に安くあげようとして。葬儀料は3等で8フローリンと56クロイツェル、それに霊柩車代が3フローリン。6日午後3時、モーツァルトの遺体は聖シュテファン教会で最後の祝福を受けた。激しいみぞれまじりの雨がたたきつけていたが、数少ない参列者は傘をさして棺のまわりに立った。やがて柩は馬に引かれ、シューラー・シュトラッセを通過して、聖マルクス墓地に運ばれた。モーツァルトの遺体が墓に下ろされたとき、誰も立会人はいなかった。



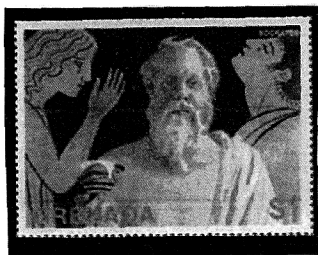
ヨハン・ゲオルク・アルブレヒツベルガー (1736-1809)
ベートーヴェンの師
作曲家シュテファン教会オルガニスト
モーツァルトへの見舞・葬儀手配・会葬に参列
彼の墓所もマルクス墓地

アルブレヒツベルガーの孫ヒルシュ (後に宮廷書記官) の証言

母に従って祖父の墓参時に、「モーツァルトの埋葬もここだった、当日は荒天で随伴者は途中で引き返した」という話を聞く。

65年後 1858 年になって、当日の悪天候、参列者なし、等が報告された。嵐のため御者が馬車を急がせたため同伴者は葬儀・埋葬の立合いをあきらめた。

ウィーン気象台の記録(1日2回): 12/6・7両日とも穏やかな天候 気温 2.5 度 風力ゼロ、当時(同時代人)の日記等による資料・記録・手記も同様



ソクラテス



モーツァルト



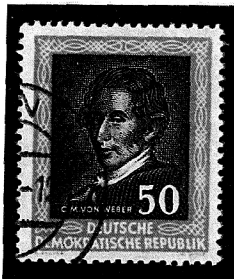
トルストイ

この間、終始姿を見せないのがコンスタンツェだった。

彼女自身が言うところでは、気も狂わんばかりだったそうで、同じ病気で死のうと夫のベッドに身を横たえていたという。

夫の死後 18 年にして、それも友人に何度も促されてマルクス墓地を訪れるも、当然場所不明

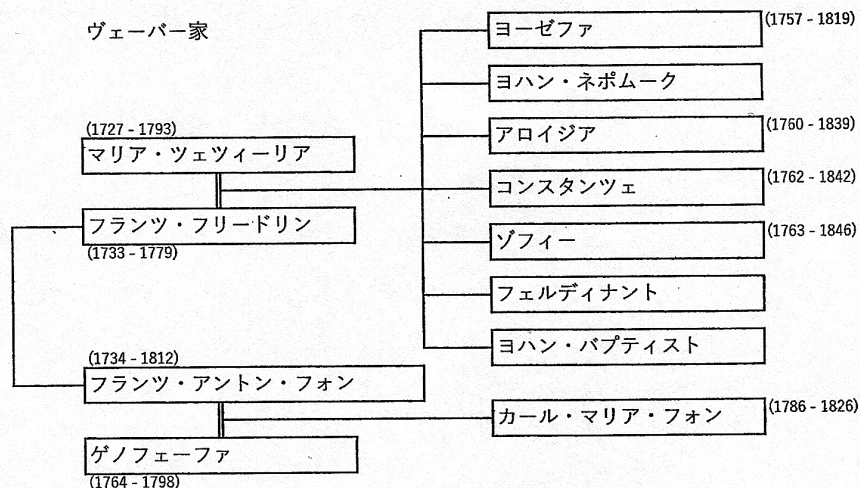
1841 年(彼女の死の前年、モーツァルトの死後 50 年)隠亡のせいになっている。



オペラ「魔弾の射手」で有名なカール・マリア・フォン・ウェーバーはコンスタンツェの23歳年下のいとこ。しかし二人の接点は確認できない。



ヴェーバー家の系図



コンスタンツェの生地ヴィーゼンタールのメータスタンプ

CONSTANZE-WEBER-
GASSE 4
79669 ZELL I.W.



stadt zell
im wiesental



Deutsche Post
FRANKIT 0,90 EUR
29.01.14 3D030016C3

Ⅱ毒殺説 a サリエリ

アントニオ・サリエリ (1750-1825)

オーストリア/ハプスブルク家に仕えたイタリア出身の宮廷楽長、且つヨーロッパ楽壇の頂点に立った。

またベートーヴェン、シューベルト、リスト等が弟子として育った。死後作品は忘れ去られたが、近年再評価され演奏やレコード等多くなった。



モーツァルトの死後すぐに毒殺説が流布、但しサリエリ説は 30 年後ベートーヴェンの筆談帖 シンドラー筆

1823 年「サリエリが喉を切りましたが未だ生きています」

1824 年「サリエリの具合が悪くなっています。彼は本当に狂っている。

モーツァルトの死に責任があり、自分が彼に毒を盛ったのだと思い込んでいます。そう告白するのだから本当なのでしょう」

プーシュキンの戯曲「モーツァルトとサリエリ」(1830 年)

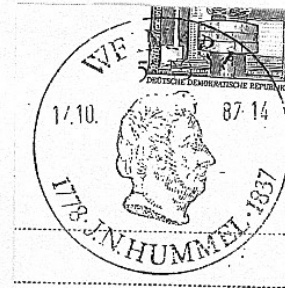
リムスキーコルサコフがそれを作曲 (オペラ化) (1897 年作曲・98 年初演)

ピーター・シェーファー原作の戯曲「アマデウス」(1979 年、84 年映画化)

モーツァルトの本名ヴォルフガング・テオフィルス・モーツァルト

Johannes Chrysostomus Wolfgangus Theophilus Mozart

ギリシャ語 Theophilus、ラテン語 Amadeus、ドイツ語 Gottlieb
モーツァルトの不審死は、フリーメイソン暗殺説を含め 20 世紀後半まで取沙汰された。



左) アレクサンドル・プーシュキン

中) ニコライ・リムスキー＝コルサコフ

右) ヨハン・ネボムーク・フンメル (1778-1837) はサリエリ説を強く否定



1970 年頃発行 ソ連の印面付き封皮

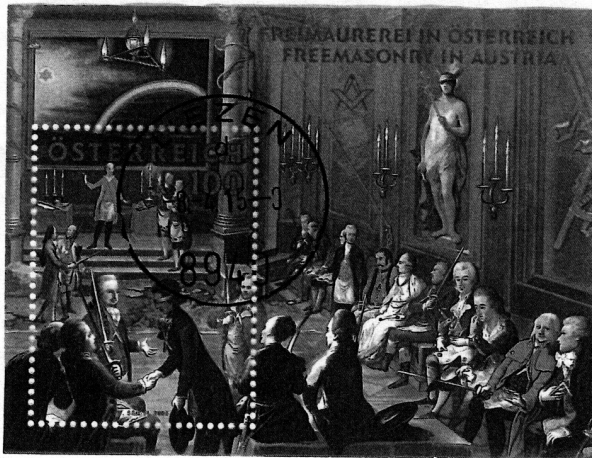
III 毒殺説 b フリーメイソン

11・2 世紀→都市の勃興＝ギルド、大学、聖堂参事会、市参事会

基幹産業＝農業→手工業技術の発達 徒弟制度、価格統制・品質管理・夜間労働の禁止→
既得権益化・固定化（他の参入排除）

フリーメイソンとは？

定住しない（フリー）、支部・分団（ロッジ） 建築物のデザイン・装飾、菓の製法など建築に関係ない分野にも精通 = 石工の知見が広いものであった



オーストリア 2006 年発行
「オーストリアのフリーメイソン」
1790 年ウィーンのフリーメイソン「戴冠した希望」作者不詳 ウィーン市立歴史博物館蔵



ベルギー1982 年発行
フリーメイソン
150 年



ブラジル
1977 年発行
ブラジル支部設立
50 年



フランス 1978 年発行
フリーメイソン 200 年



ドイツ 2002 年発行
フリーメイソン博物館
100 年、在バイロイト



ルクセンブルク 1973 年
グランドロッジ 100 年

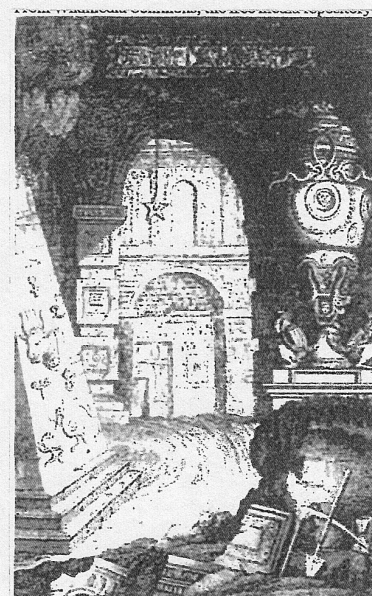


シカネーダーの生地
シュトラウピングの消印 2001 年

歌劇「魔笛」シカネーダーの台本にモーツァルトが作曲
モーツァルトは 1784 年フリーメイソンに入団 シカネーダーは多分それより前に入団
エマヌエル・シカネーダー（1751-1812）戯作者・俳優・興行主・作曲家
フリーメイソンの秘儀・秘跡を「魔笛」があからさまにした？
第 18 位高位階 / 薔薇十字騎士級の描写 / 第 2 幕の 18 人の神官
「魔笛」初版台本の挿図にヘルメスの柱 = トト神（聖なる鳥イビス）とき



左) モーツァルト生誕
200 年切手
オーストリア 1956 年
1 月 21 日発行



右) 1791 年「魔笛」
ウイーシ初演時の初版
台本扉絵

音楽学のディレクタントである二人の医師の不謹慎ぶりの例：

歌劇「魔笛」初版台本の銅版画と同じ 8 個の典型的メルクリウス寓意が認められる。四隅の太陽の輪から対をなした蛇の杖と手琴が出でいて、モーツァルトの死の毒を意味する。

「魔笛」初版台本のタイトル画にあるフリーメイソンの昇華水銀の記号を発見して、水銀で毒殺されたとする。

マチルデ・ルーデンドルフ（前神経科医）等。しかし

「アンピール様式の時計を手本としてデザインした」切手原図作者クミエロフスキー談
ウイーシ美術アカデミー会員画家

今日、フリーメイソン説は殆ど否定されている。

1962 年の大英百科事典「毒を盛られたといわれていたが、見るところチフスと思われる」
20 世紀後半でもモーツァルトの死は尋常ではない、という見方が多かった。

サン＝テクジュベリ「モーツァルトのような人物の殺害について何か潜んでいると考えたと
気が重くなる」 ＝ 「風と砂と星」



シベリウス「音楽の世界で最大の偉人の一人」というが殺された
ということは、おそらく事実であろうと思われます」

1956 年音楽学者ディーター・ケルナー博士が 4 シューマン切手
を送った際の礼状
から。



フリーメイソンの小カンタータ
「われらが喜びを高らかに告げよ」 k623
“Laut Verkunde Unsere Freude”

1791 年 11 月 18 日初演
エマヌエル・シカネーダー作詞
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲



モーツァルトの自作品目録「わが全作品の目録」に書かれた最後の作品。
ウィーンに完成したフリーメイソンの殿堂（ロッジ）である「新授冠の希望」
会堂の献堂のための作品で、献堂式の日にはモーツァルト自身の指揮で初演された。
その翌々日からモーツァルトは病床についたままとなった。
死の翌年に出版されたその初版楽譜は、このカンタータを
「親しい友人たちに囲まれて死を前にした・・・モーツァルトの最後の傑作」
と名付けている。

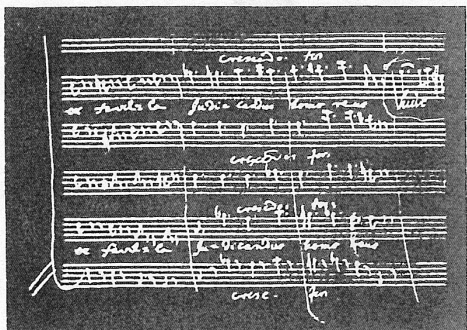
結論

「モーツァルトの死因」について、決定的な証拠資料による確認ができない以上、この問題は「解釈」の域を出ない。

モーツァルトの絶筆「レクイエム」ラクリモサ



モーツァルト記念切手展



1991年7月7～14日
主催: ヤマハ(株)銀座店・JPS音楽切手例会
後援: 財団法人日本郵趣協会

Music Stamp Unit, Japan Philatelic Society, Foundation



参考文献

- 「大音楽家の病歴」ディーター・ケルナー 音楽之友社
「モーツァルトの死」カール・ベア モーツァルト叢書Ⅷ 音楽之友社
「モーツァルトの毒殺」Ⅰ,Ⅱ J.ダルヒョウ、G.ドゥーダ、ケルナー モーツァルト叢書
「モーツァルトの暗殺」(小説) ディヴィッド・ワイズ 立風書房
「モーツァルトの伯楽」(小説) 松本清張

